

## 行事のご案内

### ＜流域フォーラム2008＞

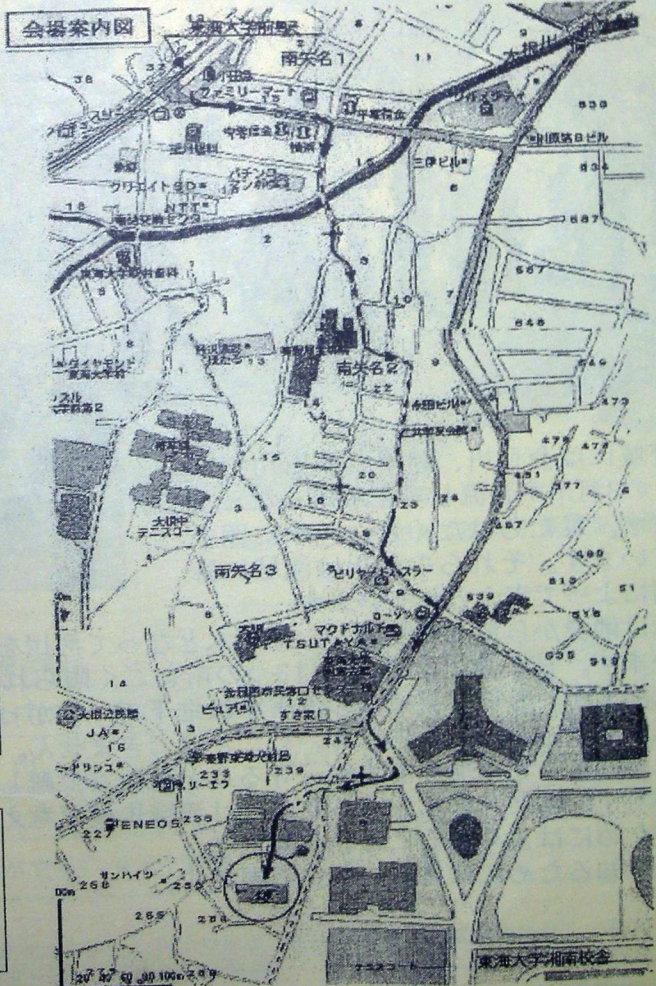
テーマ **私たちにとって金目川とは  
～いろいろな立場から金目川流域を語り、その未来に期待する～**

日時 平成20年2月3日(日) 午後1時～4時  
場所 東海大学湘南校舎 13号館 201～204教室 (下図参照)  
(金目川流域で活動中の各団体の環境パネル展を同時に開催予定)

主催 金目川水系流域ネットワーク  
NPO 法人東海大学地域環境ネットワーク  
東海大学大学院人間環境学研究科  
神奈川県湘南地域県政総合センター

協力 神奈川県環境科学センター  
後援 平塚市  
秦野市  
伊勢原市

(会場案内図)



### ＜全体会・201教室＞

- あいさつと趣旨説明(ミニ講演)
- ①真夏の水温調査からみた循環型社会づくりへの課題
- ②「川を身近に」  
～私たちにできること～
- ③県民との協働による湘南里川づくり

### ＜分科会＞

- 上記の3つのテーマで、それぞれの会場にて意見交換を行います。
- テーマ① 202教室
- ② 203教室
- ③ 204教室

### ＜パネルディスカッション＞

- 上記の各分科会での意見交換や討論がされた内容に関して、参加者全員での討論を行います。

# 事業報告 — 渋田川など水源地域探索ハイキング結果報告

佐藤 壮 (株式会社 地図環境テクノロジー)

私たちの暮らす社会は水循環と密接に関係しています。

私たち人間の体の60パーセントは水です。地球の70パーセントは水です。

私たちは水と生きています。

水は循環しています。雨や河川のようなすばやい水の循環、地下水のような数十日、数ヶ月、何年、何十年、何百年と長い水の循環。水循環は早いものと遅いものがあります。普段、私たちの生活でよく目にするものは早い水循環です。

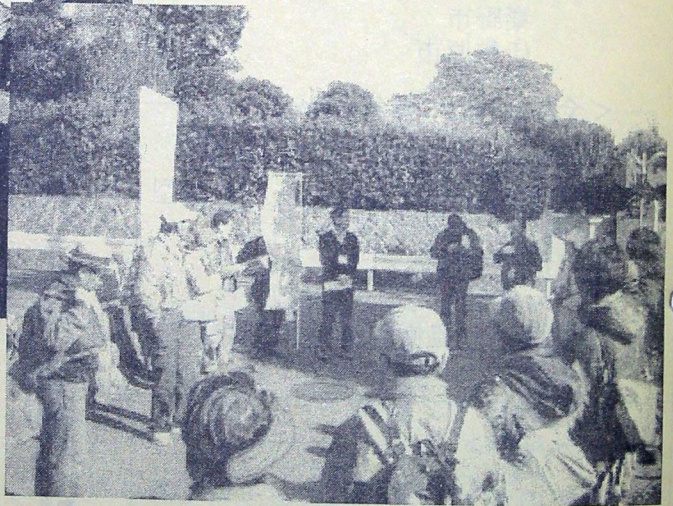
私たちは金目川流域に住んでいます。金目川流域は伊勢原市、秦野市、平塚市の3つの市におよびます。



(渋田川水源地域に向かうバスの乗車風景)



(水源地域探索のスタート前の説明と打合せ)



流域には金目川、鈴川、渋田川そしてその3河川が合流して花水川となっています。私たちはたくさんの水に囲まれています。それらの河川は流域に降る雨によって支えられています。

雨は地表から地下へ浸透し、地下水となって河川を支えています。河川と地下水はつながっています。目に見える河川水は3つの市をごく限られた場所(河道)を通して早い時間で海へ流れ出ます。目には見えない地下水は地下でつながってゆっくり海へ向かって流れています。

私たちは水がないと生きていくことはできません。

水を汚すことは簡単ですが、守ることは非常に難しいです。それは地球温暖化と同じようなものです。私たちの水を守るためには流域規模で考えなければなりません。

そのためにはよく知る必要があります。

よく知るためには見る必要があります。

(実施日 平成19年11月25日(日)、参加者数 31名)

(渋田川水源地域での説明風景)



### 金目川水系流域ネットワーク、神奈川

県環境科学センターなどの主催する「実際に金目川流域を見て歩く活動」がなされています。金目川水系流域ネットワークでは、実際に簡易水質調査も実施し、科学的なアプローチも取り入れて流域を知り、守っていこうとする試みをおこなっています。

水温を測定しその冷たさを感じ、川のおいさを嗅ぎ、魚や虫などの水生生物を観察したりしています。また、流域の環境や地形地質に詳しい方のお話も聞くことができます。

流域を知ることで水環境への意識は必ず高まります。子供から大人まで高い意識を持つことが、流域の環境を保全していくことにつながります。

まずは私たち生活している当事者が流域を良く知ることが大切です。



(参加者による鈴川(左)と渋田川(上)の水質検査風景)

### (水質測定などのデータ)

○実施日 平成 19 年 11 月 25 日 当日の天候 晴れ

(測定データの単位は、mg/l)

場所	時間	気温(°C)	水温(°C)	COD	亜硝酸性窒素	アンモニア性窒素
渋田川源流域	10:50	18	10	1	0.02	0.2
鈴川(伯母様橋)	13:25	15	12	2~8	0.02	0.2~0.3

(参考) 伯母様橋地点の河川状況：瀬と淵が交互に現れた場所で、測定中にし尿臭が著しかった。

(ここで掲載した写真は、佐藤壮様 ((株)地圏環境テクノロジー) 及び杉野信一郎様 (県湘南地域県政総合センター) からいただいたものを使用しました。ご協力をありがとうございました。 野間)

糸井重里さんが作った言葉のようです。自然の環境。でも人の手が入らないと出来なかった心落ち着ける風景、今では荒れてしまった山野や棚田だった場所に昔の木を植え、昔のもりを作ろうとしている人たちが各地に努力を積み重ねています。秋には彼岸花やツワブキが咲くようになっていきます。

かけがえのない地球は生命の星です。

太陽エネルギーを原動力として水や大気が循環し、そのめぐみでたくさんの生命を育てています。循環の仕組みの中で水と土は、再び水と土へと還っていくことになります。

私はオオブタクサ退治に乗り出して7年がたちました。

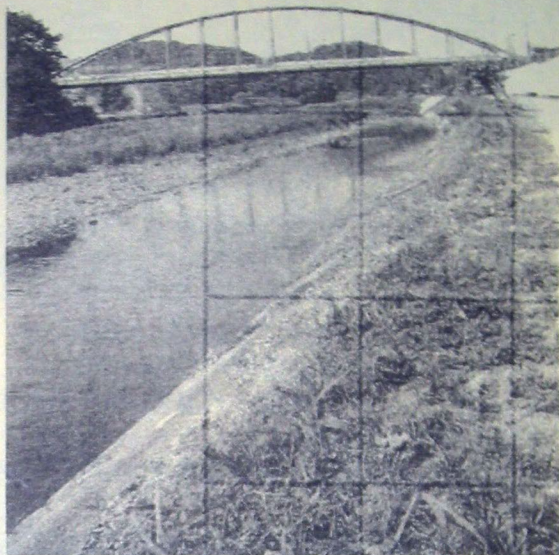
オオブタクサは昭和25年頃から関東地方へ、そして各地へ、原産地の北アメリカからの外来植物で高さは3mにも達し、他の植物を凌駕する存在です。

特に、河川敷や土手に多数生育しています。5月下旬の多い時で1日100本くらいを除去して、通算では3万本を超えてきました。

すると、昔ながらの蓬やクコやオドリコソウが繁茂し始めています。私は金目川の中流約3kmが精一杯のところまで。

皆さん手自然の活動へ動き出しませんか。

3年前からアレチウリ退治も始めています。アレチウリは、平成18年2月から、生態系に被害を及ぼすとして特定外来生物に指定されています。原産地は北アメリカ。昭和27年に清水港で確認されたのが最初の生育例です。早い時期の個体は5千本以上、発芽率は70%と5月から10月まで芽を出す、強すぎる植物です。



(かつてオオブタクサなどが繁茂していた金目川中流域)

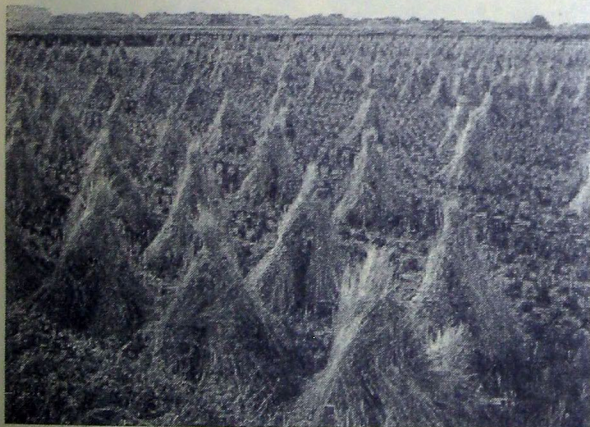
### ＜水のあった風景＞

いま、里山保全の活動が進められている。

我が国のたった2000回の稲作が、我々と生き物の暮ら方を規程し、1つにまとまった身近な生態系が構築されてきたいま、里山とそれにつながる里川の偉大さ、重要さが、あらためて認識されてきている。

豊かな澁田川の流れが生みだした食糧生産の場としての田園風景も、もはや住宅と工場に囲まれ、消えていく運命にある。

(澁田川中流域 平塚市大島付近にて、野間)



○ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局 〒259-1292 平塚市北金目 1117

東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境課程 佐々木園子

事務局あてのご連絡は、Fax 0463(50)2208 (自然環境課程) にお願ひします。

(毎月第2土曜日の午後1時30分より例会を開催しています。是非ご参加下さい。)